

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川口市心身障害福祉センターわかゆり学園 保育所等訪問		
○保護者評価実施期間	R7年1月9日 ～ R7年2月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	R7年2月3日 ～ R7年2月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	R7年1月9日 ～ R7年2月14日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6施設	(回答数) 1施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と話し合う機会を意識的に設けている。 具体的には保護者と日程調整の上で、三者面談（保護者、訪問先職員、訪問員）の実施や、個別支援計画の聞き取り・説明、訪問のフィードバック時を対面にて実施。	三者で児の状況を共有し、皆で一緒に関わりや支援の方向性について話し合っている。	支援報告はメールや電話だけでなく対面で伝える機会を意識的に取り入れるようにしていく。
2	障害児支援（小集団）で経験を重ねた職員が訪問支援員として従事している。	児への個別の関わり方だけでなくクラス状況を考慮した対応方法を提案している。 必要に応じて2名で訪問に伺いながら、アセスメントが偏らないように対応している。 定期的にわかゆり学園の保育に入中で、子どもとの関わり方や支援の幅が広がるように意識している。	訪問支援に専門職が同行したり、動画（保護者、施設の撮影許可の有無）をもとに専門職から助言を受けられるように、環境を整えていく。
3	平成27年度の事業開始から10年の歴史がある。	利用申し込みから終結までの1つひとつの流れを丁寧に実施。 子どもを中心に置いて、保護者、所属施設の職員、訪問職員の3者で話し合いの場を設けている。	過去に支援した取り組みを次年度に継承しつつ、今の時代の流れに沿った形で支援するよう検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年度によって訪問支援の担当職員の入れ替わりがある。 （訪問施設や保護者との関係性を再構築していく必要がある）	定期的な人事異動があるため。	常日頃より支援については明確な記録を作成するとともに、異動時には後任者への引継ぎを徹底する。
2	学園に来園していただいたの面談（面接や契約など）の機会が取りにくい。	事業所が不便な立地であるため、離れた場所から来られる方については車がないと負担が大きくなることもある。	保護者に確認の上で希望があれば、家庭に訪問しての面談を提案する。対面が難しい場合には、メールや電話などのツールを活用してのやり取りを提案する。 契約についても保護者負担の軽減と利用児状況の確認も兼ねて、利用者宅へ伺い実施することを提案する。
3	訪問支援の対象が未就学児であるため、就学後のフォローはできていない。	わかゆり学園では未就学児を対象としているため。	保育所等訪問としての支援は就学までで切れてしまうが、何かあった時の相談場所として保護者に周知していく。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 川口市心身障害福祉センターわかゆり学園 保育所等訪問

公表日 令和7年3月25日

利用児童数 7名

回収数 3名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	訪問支援に使用する教員教材が整えられていますか。	2	0	0	1		今後も必要な教員教材を整えてまいります。
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	2	1	0	0		
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き適切に説明をしてまいります。
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	3	0	0	0		今後も保護者様、訪問先とご相談をした上で決定をしてまいります。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	3	0	0	0		職員配置は継続してまいります。
	6	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3	0	0	0		職員研修等を行い専門性を高めてまいります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、お子様のご様子や保護者様とお話をしながら個別支援計画の作成を行ってまいります。
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、訪問先施設の先生方と相談をしながら個別支援計画を作成してまいります。
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3	0	0	0		引き続きガイドラインに基づき、適切な支援を提供してまいります。
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き保育所等訪問支援に沿った支援を提供してまいります。
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、訪問先施設に配慮した支援を提供してまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3	0	0	0		引き続き丁寧な説明をしてまいります。
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3	0	0	0		引き続き丁寧な説明をしてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	3	0	0	0		家族支援プログラムや研修会等、充実できるよう検討をしてまいります。
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていますか。	3	0	0	0		メールにて訪問時の様子をお知らせしております。引き続き、共通理解が図れるようにしてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	0	0	0		引き続き面談等を行いお子様についてご支援してまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3	0	0	0		引き続きお子様の状況を確認しながら保護者の方の思いを受け取れるようにしてまいります。
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	0	0	0		引き続きご相談やその申し入れに対して迅速かつ適切に対応してまいります。
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、お電話やメール、通知文等で情報伝達を行ってまいります。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、必要な助言、指導が出来るよう、研修等でスキルアップをしてまいります。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、訪問先施設と密に連携を図ってまいります。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、メール等で報告書をお渡しし、共有をしてまいります。
非 常 時 等 の 対 応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2	0	0	1		通知文等でお知らせをしています。また、自己評価の結果等は掲示板に掲示するとともにホームページにて公表をいたします。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	1	0	0		引き続き個人情報の適正な取扱いについては徹底してまいります。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	3	0	0	0		引き続き、緊急時の対応については訪問先施設と連携を図ってまいります。
満 足 度	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	0	0	0		訪問先施設と連携を図り、安全の確保が十分に行われたうえで支援を行ってまいります。
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	3	0	0	0		お子様に負担にならないよう訪問支援を行って参ります。
	28	事業所の支援に満足していますか。	2	0	0	0		保護者の皆様のご意見を参考にし、より良い事業所になるよう努めてまいります。

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				
川口市心身障害福祉センターわかゆり学園		令和7年3月24日				
		利用児童数			7名	回収数 1名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	1	0	0	子どもへの関わり方を見て、具体的なアドバイス、保育や保育士を認め褒めていただけ自信につながった。我が子の障害を受け入れられなかった保護者にも丸ごと受け止めて頂いたことで保護者も前向きに受け入れることができたと感じます。	引き続き訪問支援の報告を通して集団でのお子さんの様子を保護者にお伝えしていきます。また三者面談（保護者、訪問先職員、訪問員）を定期的実施することでお子さんの成長や今後の生活について話し合っていきます。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	1	0	0	大満足です。場面に応じて対応を教えてくださいました。同じ視点（立ち位置）でのアドバイスは受け入れやすく、実行しやすかった	ご意見ありがとうございます。支援員として大変励みになります。今後も適切な支援を提供していきます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	1	0	0	質問の意図をくみ取り的確に回答してくれました	すぐにお答えできない質問に対しては、一度持ち帰り専門職等に相談・確認の上回答するようにしていきます。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	1	0	0	保育園と療育の線引きを教えてください園としても考えやすくなりました。また、「できるときでいいんです。」との言葉にも救われました	利用児の様子だけでなく、クラス状況も考慮し、実現可能な対応方法を提案するよう心がけていきます。
5	事業所からの支援に満足していますか。	1	0	0	気になる子どものことも相談できて良かった	訪問支援をきっかけに利用児以外のお子さんの相談を頂くことも有るため、その際には地域の巡回支援として対応させていただきます。
その他のご意見					ご意見を踏まえた対応	
来年度も訪問支援をお願いしたいと思います。					ぜひ来年度以降もよろしくお願いいたします。 今後につきましても、ご相談・お悩み等がありましたらお気軽にご連絡いただき、一緒に考えさせていただきます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		川口市心身障害福祉センターわかゆり学園 保育所等訪問					公表日	令和7年3月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・ 運営・ 体制	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2	0	学園内にある教具教材を訪問支援に活用している。 なるべく訪問先に負担がかからないように、提案している。 必要に応じて、使用する教材の提供や貸出をしている。（訪問先施設への影響も考慮し、担任に確認のもと使用する）			
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	0	面接や契約手続き、支援状況によっては児童発達支援管理責任者と訪問員の2名で対応するようにしている。 地域担当の児童発達支援管理責任者を配置している。			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	0	支援する中で何か不具合や検討事項が生じた際には、その都度職員間で振り返りを行い改善するようにしている。 毎年、業務の目標を立て、年度の後半に振り返り、自己評価をしている。また、評価者との面談も実施している。			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	今年度より保育所等訪問支援として事業所評価を実施している。 年度末に「保育所等訪問支援評価表」のアンケートを実施している。			
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	0	日常的に職員間で話を交わす機会を設けているため、その際に意見や課題のすり合わせを行うようにしている。 定期的に担当者で話し合う場を設けている。これまでの業務内容にこだわらず、時代のニーズに合わせた支援に繋がるよう改善を重ねている。			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	2				
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	0	積極的に他クラスの保育に参加し子ども支援の感覚が鈍らないようにしている。 施設内及び係内での研修を通して、資質向上の機会を確保している。 市内（法人内）の研修だけでなく、県主催の研修等にも参加している。			
	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2	0	保護者、担任からの聞き取りや支援での子ども状況からアセスメントを行い、子どものストレngthsが活かせるように支援計画を作成している。 利用児・保護者との面談だけでなく、施設に訪問し、集団での課題の抽出をしている。訪問先施設の職員からも、面談でニーズの聞き取りを実施している。			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2	0	職員間で日常的に話を交わし、子どもの育ちや課題を加味しながら検討を行っている。 実際に直接支援を行うのは母集団の先生方であるため、無理なく実施できる方法を検討している。 訪問先施設での様子を共有し、児童発達支援責任者と訪問員と話し合いながら、個別支援計画を作成している。			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2	0	作成にあたっては、母集団での子どもの様子に加え担任の先生から聞き取りを実施。本児状況だけでなくクラス状況やカリキュラムに沿った内容等、先生の意向を盛り込みながらさくせいするようにしている。 個別支援計画作成前に、施設担当者にニーズの聞き取りを実施している。訪問支援の頻度や時間・振り返り方法等もあわせて確認している。			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	0	作成後は職員間で共有し、訪問職員が担任と確認しながら支援を実施している。 支援計画会議を担当者間で必ず実施し、支援の方向性を共有している。			
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	0	併用利用クラスに所属している児については、発達検査等のツールを用いてアセスメントを実施。ベースは母集団での活動や人との関わりなどの行動観察から子どもの状態像のアセスメントを実施。 支援開始前に施設を訪問し、様子を観察している。個別の検査などでは判断できない、集団場面の課題についても事前に確認している。	保育所等訪問のみの利用についてはツールの使用が難しいのが課題。		

適切な支援の提供	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2	0	ガイドラインを踏まえて支援内容の設定を行っているが、実際に子どもへ支援するのが担任の先生になってしまうことを念頭に置き、無理なく実施できる内容を設定している。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	0	利用児や訪問先施設の職員だけでなく、その保護者に対する支援も実施している。利用児の取り巻く環境を、三者（保護者・訪問先職員・訪問員）で共有しながら、総合的な育ちの環境の安定につなげている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	1	作成した計画をもとに現状の子どもの様子を踏まえて、どのような形で支援を提供できるかを検討した上で訪問へ伺っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	0	支援開始前には前回の訪問支援記録や現状の様子から支援内容を確認した上で、訪問へ伺っている。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2	0	訪問員1人で担当しているケースも多い為、1人で抱え込まないように話を交わす機会を意識的に設けている。	
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2	0	施設には、1～2名で訪問している。2名で訪問する際は、支援開始前に当日の動きを確認している。専門職（PT・OT等）が同行する際は、事前に保護者の困り感も聞き取り、支援を行っている。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	0	訪問後には訪問記録への記載だけでなく、話を交わしながら支援内容の確認、今後の課題への取り組み、支援の方向性などについて共有している。	
関係機関や保護者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	0	訪問後の理念や支援手法を尊重した上で、子どもへの支援方法について一緒に検討を行っている。	保護者への振り返りにタイムラグが出てしまうことも有る
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	0	相手ありきの業務である為、先生方の声にしっかりと耳を傾け、その都度確認し承諾の上で支援することを心がけている。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	0	訪問先施設のカリキュラムに沿って、訪問施設を実施している。訪問クラスの実情を考慮し、実現可能な支援手法を伝えていく。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	0	訪問後、遅くとも1週間以内には作成を行い、支援の振り返りを行っている。	

こ と の 連 携	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	0	児童発達支援センターとして子ども部会へ参加。市内の放課後等デイサービス及び児童発達支援事業所に向けた連絡会の運営を行うも、運営方法の困難さがある。	保育所等訪問支援についての連絡会は実施していないため、情報交換の場をどのように設定していくかが課題となる。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	0	併用利用クラスに在籍の保護者については、日頃から登園時に話を交わすようにしている。 保育所等訪問支援のみご利用の保護者については面と向かって話を交わす機会が少ない為、メールや電話でのやり取りだけになってしまっている。 新規利用児については、利用開始時に具体的に頻度などを定めて、面談や電話での機会を設けていくように対応している。 訪問支援報告の際や面談を通じ、定期的に発達状況を確認している。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	0	併用利用クラスに在籍の保護者に向けては、懇談会の場でペアレント・プログラムの要素を盛り込むことで共有するようにしている。 保育所等訪問支援と通園支援(親子登園)を併用している保護者に、ペアレント・トレーニングや懇談会(保護者同士)等を実施している。就学に関する情報提供や、教育研究所による就学相談説明会等を開催している。	保育所等訪問支援のみの保護者に向けては機会も情報も提供できていないため、今後どのような形で提供できるかを検討していく必要がある
保 護 者 等 へ の 説 明 等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2	0	契約時に書面を確認しながら説明を実施。その際に、保護者から不明点や疑問点についての確認も行っている。 保育所等訪問支援の契約時に、対面で説明している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2	0	利用前に資料を送付の上で、電話で簡易的な説明を実施。その後、利用前訪問の際にも書面をもとに説明を行い、その場で不明点等の確認を行っている。 保育所等訪問支援の契約時に、対面で説明している。また利用開始前に、三者面談(保護者・訪問先担当者・訪問員)を実施し、三者で共通理解の場を設けている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	0	聞き取りは保護者に向けて実施。保護者希望の聞き取りと共に、保護者に子どもの思いを代弁して頂き支援計画に落とし込むようにしている。 その際には子どもの得意なことや好きな事など、子どもが楽しむことを念頭に置いた内容になるよう、聞き取るようにしている。 個別支援計画には、保護者のニーズだけでなく、子どものニーズ(推測含む)も記載している。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2	0	計画の作成後は保護者に内容説明を行い確認してもらい、その上で同意を得ている。 個別支援計画作成後は、必ず保護者の同意を得てから、支援を開始している。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2	0	併用利用クラスに在籍している保護者については、支援の何気ない会話の中で家庭状況の確認を行ったり、こちらの判断や保護者の希望によっては時間を設けて担任と面談を行うことや、心理士とのカウンセリングや医師との療育相談に掛けるなどの対応している。 保育所等訪問支援のみ利用されているケースについても、こちらの判断によっては発達検査を勧める等の対応を取っている。 定期的に面談の場を設け、家庭の様子を聞き取り、また訪問先施設の様子を伝えている。情報を共有しながら、課題に対する支援の方向性を話し合っている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	0	父母会、保護者会の運営は行っていない。 保護者交流の場としては、就学相談や先輩保護者の話を聞く会などの情報共有の場を提供している。 保育所等訪問支援と通園支援(親子登園)を併用している保護者に、懇談会(保護者同士)等を実施している。きょうだい同士の交流する機会はない。	
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2	0	希望があった際には、日時を設定して面談の場を設けるようにしている。 メールや電話での相談や申入れが多いが、担当間で共有しながら、迅速に対応している。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	1	メーリングリストを作成し、適宜就学に向けた情報提供を実施している。 訪問先施設や学年等がそれぞれ異なるため、共通の通信は発行せず、個々に必要な情報を発信している。	

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2	0	支援記録等を共有時にメールを活用する際には、個人名をイニシャル表記にするなど配慮している。 記録については原則手渡しするようにしている。 手渡し以外（メールや郵送等）で個人情報をやりとりする際は、個人名をイニシャル表記にしている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2	0	口頭だけでなく、紙面、実物など視覚情報を用いながら、情報を伝達するようにしている。 また外国籍の保護者もいるため、言葉を選んでかみ砕いて話をするようにしている。 情報伝達の手段は、メール・書面・電話・対面等、複数の手段で実施している。	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2	0	訪問時には支援を利用している児についての対応のみとなるが、その他のクラス児の相談については地域支援として児童発達支援センターの巡回（訪問）支援として対応している。 なるべく提案する事項については、対象児だけでなくクラス児全体にとってもプラスになる内容を提供している。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2	0	訪問支援後のカンファレンスについては必ず実施するが、実施方法については訪問施設の都合によって異なる。 実施場面、時間、方法（電話、対面）は確認の上で先生方の負担とならないよう実施している。 訪問先施設の都合を配慮し、振り返りは対面か電話で実施している。時間についても、基本的に施設の希望を優先している。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2	0	支援実施後に記録を作成し、振り返りを実施。振り返り方法については併行利用クラスに在籍している保護者については対面にて報告を行う。その他、保護者間での共有の意味も含めてメールで報告することもある。 報告する際には保護者状況によっては伝える内容の精査や伝え方等、必要に応じた配慮を取っている。 訪問支援の記録を、毎回メールや書面にて報告している。面談や電話連絡も定期的に実施し、施設での様子や支援内容の詳細を伝えている。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2	0	子どもへの支援に必要な情報については、保護者に確認、同意の上で情報を共有するようにしている。 契約時に、個人情報の取り扱いについて確認している。個人情報を施設と共有する際は、保護者の確認のもと行っている。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2	0	相談いただいた内容についてはなるべくタイムリーに返答するようにしている。その場での返答が難しい場合には、職場に持ち帰り他の職員の意見を参考に返答するようにしている。 必要に応じて、学園で利用している教具・教材や資料など提供して対応することもある。 クラス運営（利用児所属）についての相談も受けることがある。クラス状況を踏まえ、支援手法を提示し、施設担当者と一緒に実現可能な支援を考えている。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	1	併行利用クラスに在籍している保護者については、避難訓練を実施している。 保護者に向けて大体的に周知していく等、意図的に機会を設ける必要がある。 非常時の対応方法については三者覚書時に確認しており、訪問先の指示に従いながら子どもの安全を守るようにしている。 児童発達支援センターの各マニュアルはあるが、訪問等訪問支援の独自のマニュアルは策定していない。訪問先施設で支援をしているため、非常時は訪問先施設に準じた対応を行い、必要に応じて施設担当者に協力することを想定している。	登園日と避難訓練が重ならない場合、参加機会に繋がらないためどのように機会を担保していくかの検討は必要。 マニュアルについては策定し自由に確認できるようにになっているが、保護者への周知や目を通す時間は保障できていない。保護者に向けて大体的に周知していく等、意図的に機会を設ける必要がある。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	1	安全計画の策定は行っている。 非常時の対応方法については三者覚書時に確認しており、訪問先の指示に従いながら子どもの安全を守るようにしている。 訪問先施設で支援をしているため、非常災害等が生じた際は、訪問先施設に準じて対応することとなる。支援中に避難訓練等が実施される場合は、利用児と一緒に参加している。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	0	学園内で起きたヒヤリハット案件については、その都度担任が記録して職員全体で共有している。 併行利用クラスに在籍児については、必要に応じて所属先へ共有し、対応を検討する等の対応を取れるとよい。 ヒヤリハットが生じた際は、日々のミーティングで職員間で共有すると共に、再発防止策も検討している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	0	毎年研修を実施し、職員の意識を高める機会を設けている。 毎年、「障害者虐待防止研修」を受講している。	訪問先での支援提供時や検討時には虐待研修で深めた知識を含めた助言が意識できるとよい。

	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	0	2	該当者はいない。 身体拘束を必要とするケースがない。	身体拘束を行う際には、研修を通して学んだ知識（3原則）をもとに検討し、組織的な話し合いのもとに検討していけるとよい。
--	----	--	---	---	-----------------------------------	--